

仙台藩 歴代藩主の横顔 第8回

九代藩主 伊達周宗

仙台市博物館 学芸員 水野沙織



生後六カ月で藩主

伊達周宗は幼名を政千代といい、寛政八年（一七九六）三月二日に八代藩主伊達斉村と鷹司氏興姫の長男として誕生しました。しかし、母興姫は、周宗を出産した翌四月、産後の肥立ちが悪く二歳の若さで亡くなり、同月に祖父重村、七月には父斉村が相次いで死去します。残された政千代は、九月二十九日生後六カ月で九代藩主になりました。翌年、將軍徳川家斉の娘・綾姫と縁組します。

存続の危機を迎えた仙台藩では、七代藩主重村夫人観心院が中心となり、重臣や親類大名に藩政への協力を求め、幼年藩主を支える体制を整えていきます。また、重村の弟で江戸幕府の若年寄堀田正敦に藩政の後見役を依頼しました。これは藩内および幕府に対して幼年藩主体制への不安を緩和させる役割があったと考えられています。



金小札五枚胴具足 伊達周宗所用 仙台市博物館蔵

一方、幕府も仙台藩奉行の中村景貞らに対して藩務に一層励むように命じ、国目付を仙台藩に派遣して藩政を監視させています。

藩政を襲う難局

政千代の藩主就任の翌月、江戸の上屋敷が火災に遭い、文化九年（一八一二）には、仙台城二の丸が落雷によってほぼ全焼し、再建費用は藩財政を苦しめました。

また、ロシアの南下政策によって蝦夷地への脅威が迫ると、幕府は蝦夷地を直轄地とし、東北の大名にその警備を命じます。仙台藩では、文化五年に幕府から命じられた派兵人数の約三倍にあたる一七〇〇人の藩士をエトロフ・クナシリ・箱館へ出兵させています。この派兵は幕府から褒賞を受けますが、出兵による病死者は多く、その経費負担もまた財政を圧迫しました。蝦夷地警備への積極的な対応は、幼年藩主体制を危惧する幕府の信用を得るねらいがあったと思われる。

隠された死

祖母の観心院は政千代とともに相撲観戦や漂流民の話聞くなど、藩政面だけでなく日常的に寄り添っていたようです。また、政千代は六カ月後に生まれた弟徳三郎（後の一〇

代藩主斉宗）とも幼いころから、鷹狩りや狂言と一緒に楽しんでおり、時には正操院（重村側室・斉村実母）と三人で菊をめぐる穏やかな風景も垣間見えます。

健やかな成長を期待された政千代ですが、文化六年正月一七日、一四歳で痘瘡を患った後は寝たきりになり、弟の徳三郎が藩主代役を務めます。翌年、政千代は周宗と名を改めますが、一七歳となる文化九年、病状の回復が見込めない理由で、弟の徳三郎への家督相続を願い出しました。周宗は元服の際に將軍に謁見し、一字拝領するという通常の儀礼を経ないままに隠居するため、幕府の許しが得られるか不安な状態でしたが、祖先の勤勞、徳川家との縁組を理由に隠居が認められると、周宗は四月一七日に永眠しました。

以上が仙台藩の正史『治家記録』に記された周宗死去の顛末です。実は周宗の死は一七歳まで幕府には秘され、生きているかのように周囲が振る舞っていたと伝えられています。一三代藩主伊達慶邦が傳役二人の話をまとめた『二老物語』によれば、周宗は痘瘡を患ったと記される正月十七日に死去し、表向きに公表するまでの四年間、毎月十七日は観音の御日として必ず精進していたと記されており、これを信じれば一四歳で夭折したことになり

ます。短く謎に満ちた周宗の事績を語る史料は多くはありませんが、画像や具足は凛々しい少年藩主像を想起させるものが残されています。

※本稿では仙台市博物館の学術研究機関たる立場から歴史上の人物名に敬称を付しておりません。

特別展 古代アンデス文明展

9月30日(日)まで好評開催中!

紀元前3,000年頃から16世紀のインカ帝国の滅亡まで、アンデス地域で盛衰を繰り返したナスカ、モチエ、シカンなど代表的な9つの文化を中心に、アンデス文明の全貌に迫ります。

詳しくは…

【観覧料】一般・大学生1,500円、高校生800円、小・中学生600円
※10名以上の団体は各100円引き。※キャンパスメンバーズ割引は当日券のみ対象。
【開館時間】9:00~16:45(入館は16:15まで)
【会期中の休館日】毎週月曜日(8/6、8/13、9/17、9/24は開館)、9/18(火)、9/25(火)

◆下記の月曜日は開館します◆
8月6日(月)、13日(月)



細かい細工がほどこされた金の装飾品(シカン文化) ペルー文化省・国立ブリューニング考古学博物館所蔵



リヤマをかたどった土器(香炉)(ワリ文化) ペルー文化省・国立考古学人類学歴史学博物館所蔵

仙台市博物館 TEL:022-225-3074 ▶8月の休館日:毎週月曜日(6日、13日は開館)
SENDAI CITY MUSEUM 〒980-0862 仙台市青葉区川内26番地(仙台城三の丸跡) ▶ツイッター @sendai_shihaku